



皆さん こんにちは

以前 学校現場で、がんについての教育 = がん教育 が行われたという話題をとりあげたことがありました。

県の方からお声がけしていただき、先日 松本のとある小学校で、信州大学の医師が がん教育の授業を実際する場面に立ち合わせていただく機会をもちました。

差し障りのない範囲でどのような形だったかお伝えすると 50分授業を2コマ連続する形で、1コマ目は、児童達が、項目毎にがんについて調べた内容をグループ毎に発表してその感想を話していくという流れでした。

2コマ目に、児童達があらかじめ疑問に思った内容を、講師の先生にあらかじめ伝えておいて、それも絡めてがん全般について解説を加えていくという内容でした。

子供達が調べた内容は、我々の考える視点と少し違っていて、案外マニアックなところが気になったりするんだなという驚きに似た発見がありました。

担任や養護の先生が恐らく相当事前準備から相当力を入れてこの日に望んでいただろうと推察され、やはり学校の先生は大変な職業だなと改めて感じました。

私自身も年内に、学校現場でお話しをさせていただく機会をいただけそうなので、今回の授業参加で、勉強したことを活かして是非、生徒さん達にとって何らかの意味の持てる形に作りあげていきたいと強く感じました。

また、この席で、8月に講演いただいた柿本さんにも久しぶりにお会いでき、少しびっくりしたとともにうれしかったです。

新たにお知り合いになれた方もおり、みんなで長野県のがん教育がうまくまわるように協力していきたいと思っています。

では、また。